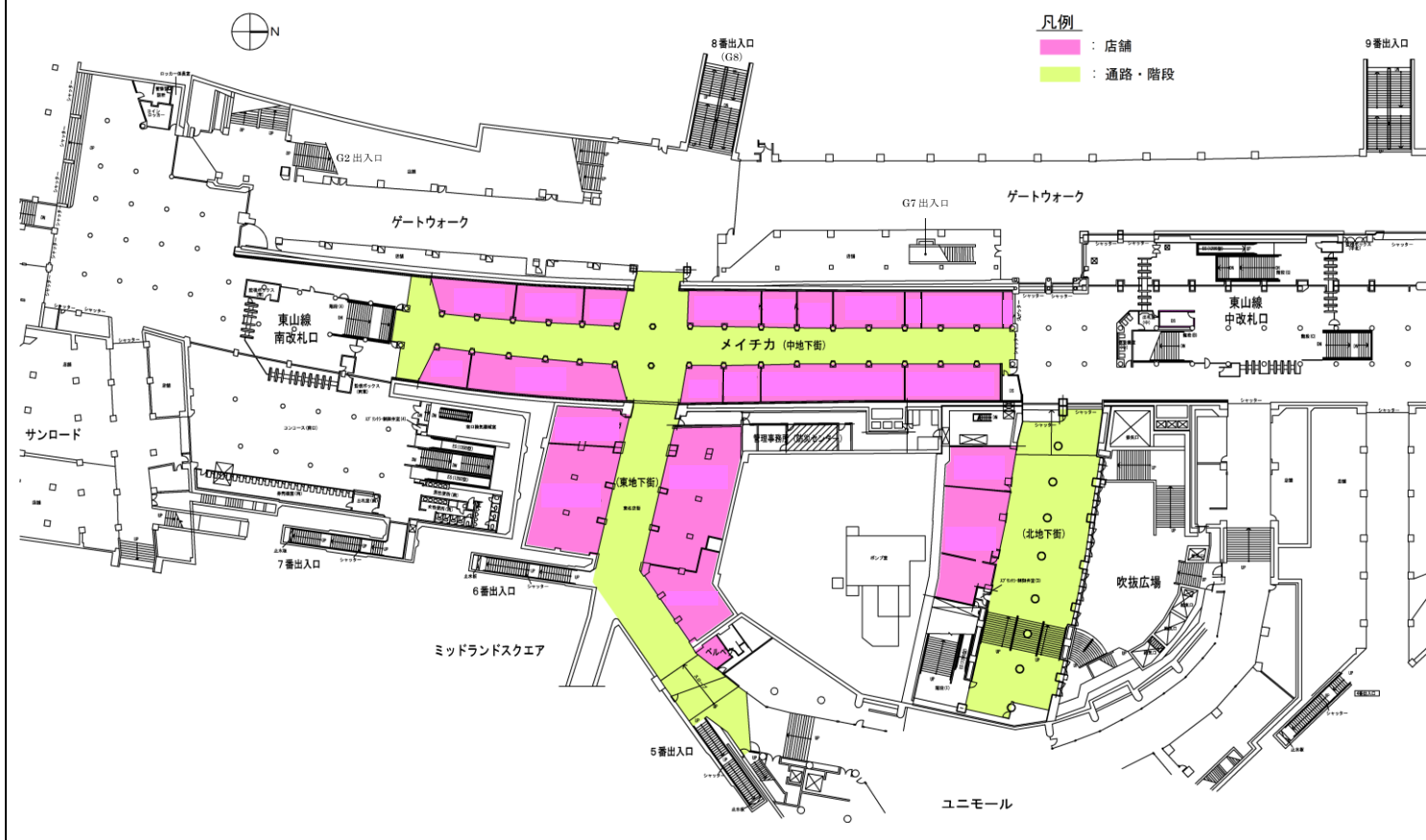


名駅地下街防災推進計画（当初）
（メイチカ）

平成30年 3月15日

株式会社名古屋交通開発機構

1. 地下街の名称、位置、区域及び面積					
地下街の名称	名駅地下街（メイチカ）				
地下街の位置	名古屋市中村区名駅3丁目14番15号先				
地下街の区域	 凡例 - 店舗 - 通路・階段				
全体面積	2,993㎡	地下通路面積	1,398㎡	その他（機械室・電気室）	210㎡

2. 地下街管理会社の代表者		
	株式会社名古屋交通開発機構 代表取締役社長 前田 務	
3. 防災管理責任者及び管理体制		
	統括防火・防災管理者	名駅管理センター所長 竹中 正美
	管理体制	協議会長 統括管理者 統括管理者の代行者 本部隊 地区隊 通報連絡(情報)班 1名 消火・安全防護班 1名 避難誘導班 1名 応急救護班 1名 通報連絡(情報)班 消火・安全防護班 避難誘導班 応急救護班 メイチカ自衛消防組織編成表 ・メイチカの共同防火・防災管理を行うため、メイチカ共同防火・防災管理協議会を設置し、協議会の会長は株式会社名古屋交通開発機構代表取締役社長とする。 ・火災、地震その他の災害による人的又は物的な被害を最小限に止めるため、自衛消防組織を編成する。 ・自衛消防組織は、統括管理者（統括防火・防災管理者）が統括指揮する。

4. 安全点検・調査結果

耐震診断

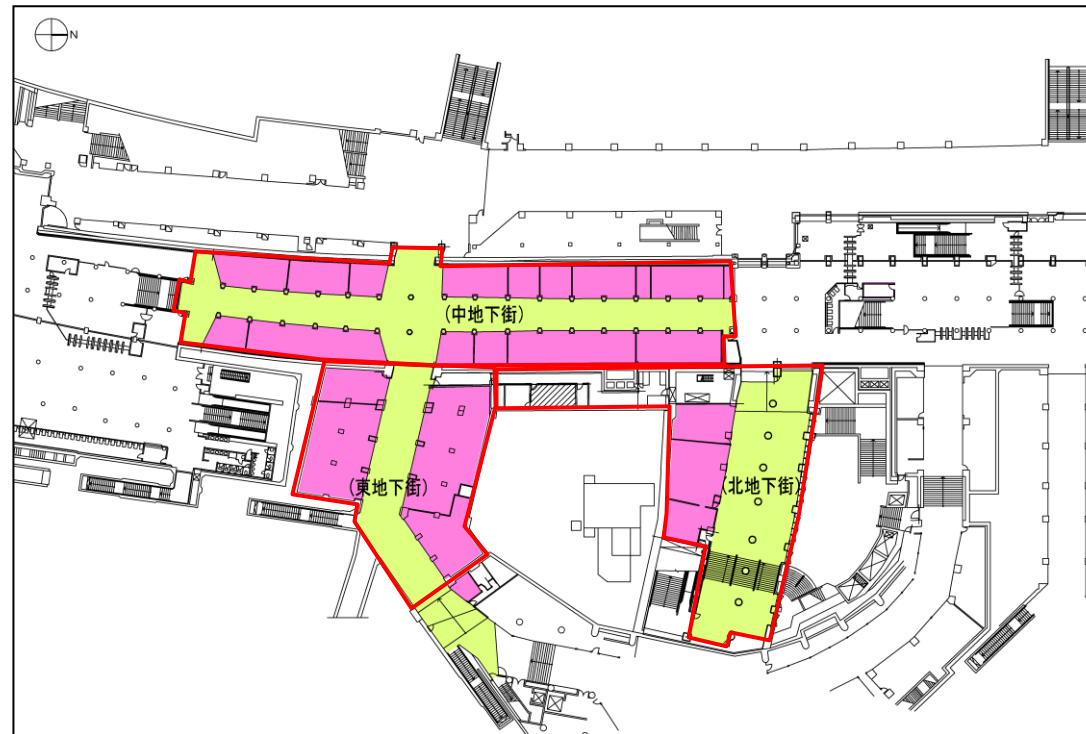
- ・ 中地下街、北地下街

地下鉄構造物と一体構造となっている中地下街及び北地下街については、平成7年度に土木系（鉄道）の耐震基準により耐震診断を行った結果、構造物に大きな変形が生じるおそれが無いことを確認しており、耐震補強の必要はないと判断している。

- ・ 東地下街

東地下街については、平成29年度に土木系（鉄道）の耐震基準により耐震診断を行った結果、構造物に大きな変形が生じるおそれが無いことを確認しており、耐震補強の必要はないと判断している。

ブロック位置図（耐震診断）



5. 地下街防災推進事業において行われる補助対象事業

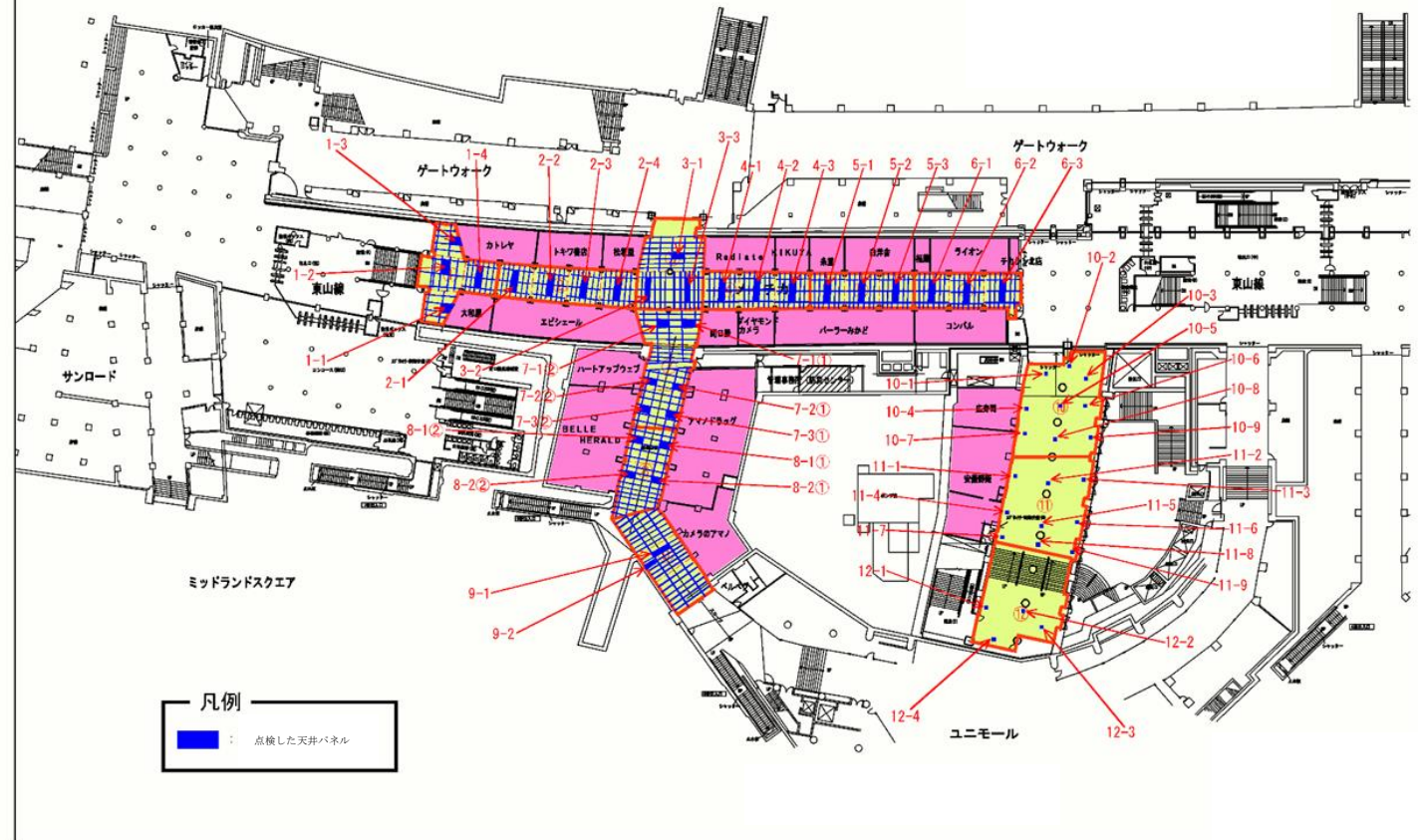
1) 安全点検・調査

- ・地下街の通路部はアルミパネル構造の天井である。
 - ・平成29年度は通路部の外観点検と天井内点検を実施した。
- (1) 外観点検
- ・天井パネルは落下のおそれは無いことを確認した。
 - ・天井面設置器具等本体は、吊り具合の悪さ（ずれなど）は無いことを確認した。
- (2) 天井内点検
- ・「緊急対策」の必要が無いことを確認した。
 - ・鉄筋の露出、配線類がスラブから支持されていない、などの状況を確認し、「要対策」とした。
 - ・0.4mm以上のひび割れ、スラブのはつり（欠損）などの状況を確認し、「要定期点検」とした。
 - ・天井内旧仕上り材の浮き、天井下地の切り欠き、コンクリート面の白華、漏水跡及び0.4mm未満のひび割れの状況を確認し、「要経過観察」とした。

(3) 改善計画

点検結果			改善計画
不具合無し	—	A	—
不具合有り	緊急対策	B1	該当無し(今回の点検・調査ではコンクリートの躯体に大きな損傷は見当たらず、概ね健全な状態を確認している。)
	要対策	B2	鉄筋の露出した箇所は防錆処理を実施する。(2箇所)
		B3	スラブから支持されていない配線類は適正な支持を実施する。(7箇所)
	要定期点検	B4～B7	スラブのひび割れ(0.4mm以上)、はつり(欠損)、野縁の不具合、吊ボルト溶接が確認された箇所は年1回定期的な点検を行う。
	要経過観察	B7～B12	天井内旧仕上り材の浮き、天井下地の切り欠き、コンクリート面の白華、漏水跡、スラブのひび割れ(0.4mm未満)が確認された箇所は随時経過の観察を実施する。

天井内点検実施位置図



天井内目視点検結果一覧

名駅地下街	点検日: 2017年9月4日～9月20日及び、11月16日(7-9ブロック)										
「安心避難ガイドライン」を参考にした点検項目	(1)天井吊ボルト		(2)形状、部材の変化		(3)設置機器との干渉	(4)天井内設備			(5)構造物の状況		
点検口	1)	2)	1)	2)		1)	2)	3)			
1-1	A	A	A	A	A	A	A	A	B8		
1-2	A	A	A	A	A	A	A	A	B11		
1-3	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
1-4	A	A	A	A	A	A	A	A	B8		
2-1	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
2-2	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
2-3	A	A	A	A	A	A	A	A	B8		
2-4	A	A	A	A	A	A	A	A	B8		
3-1	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
3-2	A	A	A	A	A	A	A	A	B8, B9		
3-3	A	A	A	A	B6	A	A	A	B2, B5, B8		
4-1	A	A	A	A	A	A	A	A	B10, B12		
4-2	A	A	A	A	A	A	A	A	B10, B12		
4-3	A	A	A	A	A	A	A	A	B8		
5-1	A	A	A	A	A	A	A	A	B8, B11		
5-2	A	A	A	A	A	A	A	A	B2, B8, B10		
5-3	A	A	A	A	A	A	A	A	B12		
6-1	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
6-2	A	A	A	A	A	A	A	A	B8, B12		
6-3	A	B3, B7	A	A	A	A	A	A	-		
7-1(1)	A	A	A	A	A	B3	B3	A	B11, B12		
7-1(2)	A	A	A	A	A	B3	B3	A	B12		
7-2(1)	A	A	A	A	A	A	A	A	B8, B9		
7-2(2)	A	A	A	A	A	A	A	A	B8		
7-3(1)	A	A	A	A	B6	A	A	A	B8		
7-3(2)	A	A	A	A	B6	A	A	A	B8		
8-1(1)	A	A	A	A	A	A	A	A	B8, B9		
8-1(2)	A	A	A	A	B6	A	A	A	B8		
8-2(1)	A	A	A	A	A	A	A	A	B4, B8, B10		
8-2(2)	A	A	A	A	A	A	A	A	B8		
9-1	—	—	—	—	—	—	—	—	A		
9-2	—	—	—	—	—	—	—	—	A		
10-1	A	A	A	A	A	A	A	A	B12		
10-2	A	A	B6	A	A	A	A	A	A		
10-3	A	A	A	A	A	A	A	A	B12		
10-4	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
10-5	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
10-6	A	A	A	A	A	A	A	A	B12		
10-7	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
10-8	A	A	A	A	A	A	A	A	B12		
10-9	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
11-1	A	B3	A	A	A	B3	A	A	A		
11-2	A	A	A	A	A	A	A	A	B10		
11-3	A	A	A	A	A	A	A	A	B12		
11-4	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
11-5	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
11-6	A	A	A	A	A	A	A	A	B12		
11-7	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
11-8	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
11-9	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
12-1	A	A	A	A	A	A	A	A	B10		
12-2	A	A	A	A	A	A	A	A	B10		
12-3	A	A	A	A	A	A	A	A	B10		
12-4	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
[安心避難ガイドライン]を参考にした点検項目とチェックポイント	(1)1)天井吊ボルトはほぼ鉛直に設置されているか。										
	(1)2)天井設置機器吊材と共吊や干渉がないか、適切な間隔が確保されているか。										
	(2)1)野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか。										
	(2)2)さびや腐食などの劣化がみられないか。										
	(3)設備機器との干渉により、部材が切断されている箇所がないか。										
	(4)1)ダクト、配管、配線ラック、天井内機器等が構造耐力上、主要な部分もしくは支持構造部材から吊られているか。										
	(4)2)天井吊り材との共吊りがないか。										
	(4)3)振れ止めや落下防止措置がとられているか。										
	(5)構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、はつり、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか。										
	B1	緊急対策									
	B2	要対策									
	B3	要対策									
	B4	要定期点検									
	B5	要定期点検									
	B6	要定期点検									
B7	要定期点検										
B8	要経過観察										
B9	要経過観察										
B10	要経過観察										
B11	要経過観察										
B12	要経過観察										
*B判定内容(4つの段階にわけて整理し、今後の対策を検討・実施していく)	鉄筋の露出あり、腐食あり										
	配線箱がスラブから支持されていない、共吊りがある										
	スラブのひび割れ0.4mm以上										
	はつり(欠損)あり										
	野縁が切断されている、野縁受けに緊結されていない										
	吊りボルトが落着止めされている										
	天井内仕上材の浮き										
	天井下地の切り欠き、あるいは剥離あり										
	コンクリート面の白華あり										
	漏水跡あり										
	スラブのひび割れ0.4mm未満										

名駅地下街

避難シミュレーション結果一覧

シナリオ1 現況

*階避難時間

			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭				避難者数	滞留人数	完了時間
	範囲		店1	店2	店3	店4	店5	店6	店7	店8	店9	店10	店11	店12	通路1	通路2						
	人数	人数→幅員↓	54	77	39	22	141	36	40	127	121	189	9	125	249	121						
D	5番出入口	2.0m										189	9		51					249人	249人	3分28秒
E	6番出入口	2.0m					141								51					192人	192人	3分04秒
F	G7番出入口	2.0m								127	121				45					293人	293人	3分53秒
G	7番出入口	2.0m			39	22									29					90人	90人	2分59秒
H	8番出入口	6.2m	54	77				36	40						73					280人	280人	2分50秒
I	吹抜広場出入口	4.1m												125		121				246人	246人	2分50秒

シナリオ2 8番出入口が使用できないと想定

*階避難時間

			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭				避難者数	滞留人数	完了時間
	範囲		店1	店2	店3	店4	店5	店6	店7	店8	店9	店10	店11	店12	通路1	通路2						
	人数	人数→幅員↓	54	77	39	22	141	36	40	127	121	189	9	125	249	121						
D	5番出入口	2.0m										189	9		51				249人	240人	3分33秒	
E	6番出入口	2.0m					141	36	40						51				268人	259人	3分37秒	
F	G7番出入口	2.0m								127	121				45				293人	293人	3分53秒	
G	7番出入口	2.0m	54	77	39	22									101				293人	293人	4分11秒	
H	8番出入口	6.2m																				
I	吹抜広場出入口	4.1m												125		121			246人	246人	2分50秒	

シナリオ3 地下鉄から1.5 00人流入想定

*階避難時間

			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	避難者数	滞留人数	完了時間*
	範囲		店1	店2	店3	店4	店5	店6	店7	店8	店9	店10	店11	店12	通路1	通路2	中改札	南改札			
	人数	人数→幅員↓	54	77	39	22	141	36	40	127	121	189	9	125	249	121	750	750			
D	5番出入口	2.0m										189	9		51				249人	249人	3分28秒
E	6番出入口	2.0m					141								51				192人	192人	3分04秒
F	G7番出入口	2.0m								127	121				45		409		702人	702人	6分30秒
G	7番出入口	2.0m			39	22									29			375	465人	465人	5分23秒
H	8番出入口	6.2m	54	77				36	40						73				280人	280人	2分50秒
I	吹抜広場出入口	4.1m												125		121	341		587人	587人	3分56秒
J	G2番出入口	3.2m																375	375人	375人	4分00秒

		<評価> シナリオ 1 : 避難完了時間が最長となった G 7 出入口においても避難完了時間は 3 分 5 3 秒となり、地下街安心避難ガイドラインで示された 8 分以下という避難完了時間を満たしていることを確認した。 シナリオ 2 : 利用者が一番多いと予想される 8 番出入口が不慮の事故で使用できなくなったことを想定した場合において、避難完了時間が最長となった 7 番出入口についても避難完了時間は 4 分 1 1 秒となり、地下街安心避難対策ガイドラインで示された 8 分以下という避難完了時間を満たしていることを確認した。 シナリオ 3 : 地下鉄からの 1 5 0 0 人の流入を想定した場合において、避難者が集中することが予想される G 7 出入口についても避難完了時間は 6 分 3 0 秒となり、地下街安心避難対策ガイドラインで示された 8 分以下という避難完了時間を満たしていることを確認した。 <まとめ> この避難シミュレーションにより、大規模な地震が発生した場合においても、安心な避難は確保できていることを確認した。また、地下鉄からの流入者や出入口の一部に障害が発生しても、現行の避難誘導計画に基づいた適切な避難誘導により、当該地下街の来館者の安心な避難の対応ができることも確認した。 災害時には特定の階段に避難者が集中しないように的確で落ち着いた避難誘導を実施する事が重要である為、避難訓練等を継続的に実施する。
--	--	--

	3) 推進計画書作成	耐震診断と 1) の安全点検結果と 2) の避難検討結果を元に、年次計画等を取りまとめ、本地下街防災推進計画を作成した。
	4) 通路等公共的空間の防災性向上に資する施設の整備	施設整備はなし
6. 補助対象事業の計画期間、概算事業費		
	1) 補助対象事業の計画期間	・平成29年度
	2) 補助対象事業の概算事業費	《平成29年度》 (税込み) (1) 地下街防災推進計画策定費 ・安全点検・調査 5. 8百万円 ・避難検討 2. 3百万円 ・計画作成 1. 6百万円 合計 【9. 7百万円】
7. 関連事業		
	○都市再生緊急整備地域の指定と関連事業	・名古屋駅周辺・伏見・栄地域（約401ha）として国が政令で指定している。（施行日：平成27年7月24日） ・うち特定都市再生緊急整備地域（約303ha）である。（施行日：平成27年7月24日）
8. 避難誘導計画		
	○災害等緊急を要する事態が発生した場合の基本的な避難誘導の考え方	(1) 避難誘導に関する基本的な考え方 ・統括防火・防災管理者は、火災、地震、浸水その他の災害が発生した場合、パニックの発生防止を図り、避難判断基準に基づき避難の可否を判断する。 ・防災関係機関から避難指示があった場合は、速やかに避難誘導を行う。 ・火災の延焼、建物の損壊等の状況を判断し、危険が切迫しているときは、地域防災計画に定める一時避難場所（六反公園）へ避難誘導する。 ・地下街への浸水が発生した場合は、地上もしくは接続ビルの2階以上へ避難誘導する。 (2) 避難方法、避難経路についての考え方

	・避難誘導班は、被災箇所に近い部分を優先して、屋外へ避難誘導する。 ・煙の発生状況及び流動状況を確認し、避難誘導方向を決定する。 ・エレベーターやエスカレーターによる避難は行わない。 ・避難誘導するときは、避難場所までの順路、道路状況等について説明し、混乱の防止に努め全員徒歩で避難する。 ・避難誘導にあたっては、拡声器、メガホン等を活用するとともに、避難者の先頭と最後尾に誘導員を配置する。 ・避難する際は、電源の遮断、ガスの元栓の閉鎖等を行う。 ・障害者等災害時要援護者は、担当者を指定して避難させる。 ・照明設備が消灯した場合は、非常照明への切り替えを確認するとともに、誘導員の指示に従い行動するよう放送し、パニックの発生防止に努める。 (3) 情報収集・情報伝達に関する体制、内容についての考え方 ・避難放送にあたっては、落ち着いた口調で、同一内容を2回繰り返し、パニックの発生防止に努める。 ・要救助者等の情報を得たときは、直ちに自衛消防本部（防災センター）へ連絡するとともに状況を確認し、報告する。 ・防災センターは、テレビ、インターネット等から緊急地震速報、気象情報の傍受に努める。 ・防災センターは、同時多発する地震被害について、総合操作盤、モニター、巡回員等から情報収集し、建物図面等の関係資料を一元化する。 ・防災センターは、総合操作盤等の障害により機器による情報収集ができなくなった場合は、情報連絡員を増強し、巡回などにより情報収集を行う。 ・防災センターは、揺れがおさまった後、地下街の被害状況の情報、余震等からの身体保護を図る情報を放送し、パニックの発生防止に努める。 ・防災センターは、来館者等の安全を確保するため、落下物等からの身体保護の指示、屋外への飛び出し禁止などの内容を放送する。
--	--